

## ■私がプロ社員になったターニング・ポイント

◇普段の仕事で、「自信がある」、「ここは人に誇れる」、「これは自分がいなければ進まない仕事だ」といった部分を書き出して下さい。

◇それは「いつ」、「誰と」、「どのような」ことによってもたらされたのか、「どんな感じだった(苦しかった、楽しかったなど)」のか、「なぜ

そう感じたのか」などで考えてみて下さい。 \* 400字以上

私は、大学卒業後に入社した広告会社で社会人の第1歩をスタートしました。

その会社では、企画営業として2年程勤務してすぐに辞めてしまいました。

というのも、ふとこの仕事は別に自分じゃなくてもいいんじゃないかなと思ってしまったからです。

別に仕事内容は嫌いではありませんでしたが、なんていうか、当時の自分の仕事が、世の中の役にたっているという実感があまり湧いてこなかったことが理由だったように感じます。

その後、しばらくやりたいことが見つからずドロップアウトしていた時期がありましたが、ある社労士の先生との出会いが自分のターニングポイントとなりました。

一端は就職したものの、すぐに辞めてしまいその後の自分の成長ビジョンが見出せずだった頃、社労士という仕事があることを知りました。

そして、国家試験に1回で合格するという自分で立てた目標を達成したことによって得られた少しの自信が今の自分のバックボーンになっているように感じます。

また、その後仕事を通じて知り合った素晴らしい人たちとの出会いが、自分の成長の糧と

## ■私が仕事を通して感動したちょっといい話

◇これまでの仕事を通して感動したことや心を動かされたこと(「うれしかった」「楽しかった」「これはちょっと自慢できる」など)を書き出してください。

◇どのような点に対して「うれしい!」「楽しい!」と感じたのかを考えながら、具体的に書いてください。 \* 400字以上

少し前の話ですが、ちょっと嬉しかった話です。

ある会社から人事コンサルティングの仕事についての見積もりを依頼されました。「見積力」という言葉があるくらい見積りは大切な営業プロセスですが、その社長は見積もりには一瞬目を通したただで、私に「あなたが考える今回当社がお願いする仕事ってどんなイメージですか?」といった質問を投げかけてきました。

少し面食らった感じはありましたが、私は自分なりに思うことを丁寧にひとつひとつ説明しました。

すると、話を聞き終えた後にその社長が一言「おたくでお願いします」と即決してくれたのです。

自分でも正直ビックリしました。

そして先日社長にふとそのときのことを聞いてみたら、社長にこう言われました。

「コンサルティングの中身はともかく、あなたは、当社のことを真剣に考えてくれそうだったし、質問の回答の内容が、私のイメージにすごく近かった」と。

見積りや営業テクニックも重要な要素ですが、ビジョンとハートの部分で社長に共感して

## ■私の仕事哲学

◇あなたが仕事をする上で、お客様のために、仲間のために、一番大切にしていることや基本として守っていることを書き出してください。

◇いつ、どんなきっかけで大切であると思い始めたのかを考えながら、具体的に書き出してください。 \* 400字以上

私は、仕事をする上でいつも自分に言い聞かせていることがあります。

それは「まずはやってみよう」という言葉を自分の中で発するということです。

困難な仕事や新しい課題に直面したときに、『無理だ』、『難しい』、『厳しい』といった言葉ではなく、「まずはやってみよう」という前向きな言葉を口にするように心がけることで、自分自身を肯定することにつながります。

というのも、お客様を満足させたり、従業員の満足を追求する場合、自分自身が自信を持ち、常に肯定的な前向きな気持ちで接していくことが大切ではないかと思っているからです。

職場の中で、ときには否定的な言葉ばかりを口にする人もいますが、そのような人の周りからは仕事を通じての感動や満足は生まれにくいように思います。

たとえ困難で難しい課題に直面しても「よし、まずはなんとかやってみよう」という気持ちでいれば、たいてい上手くいくものです。

その蓄積が結果としてお客様満足や従業員満足につながるような気がしてなりません。

いくつになってもやってみよう精神は持ち続けたいと思います。

## ■私の会社自慢

◇あなたは、あなたの会社のどのようなところに”ワクワク感”や”誇り”を感じますか。

◇日常の具体的な場面や雰囲気、各種人事施策など、具体的に書き出してください。 \* 400字以上

私の会社には、「社員満足の向上が顧客満足の実現や業績向上の源泉である」という社長の理念に根ざしたユニークな社内制度がたくさんあります。

そのひとつがアニバーサリー休暇制度です。

この制度は、自分の家族（父母・子供・配偶者）や恋人の大切な日に日頃の感謝の気持ちをこめて何かをしてあげる意味で年1回休暇を取得できるという制度です。

社員だけではなく、家族や恋人にまで会社は目を向けていますよというメッセージでもあるこのアニバーサリー休暇制度は、社員の間でもちょっとした幸せを感じられる有難い制度として定評があります。

たとえただの休暇であっても、社長の理念に基づいた意味を持たせて社内制度化することで、従業員満足の向上に効果を発揮しているように感じます。